

ろうさん彩登

サイ ト

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 武笠真次
編集 小松勝浩

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
TEL・FAX 048-838-0640

<http://www.tozans.justhpb.jp/>



県連の動き

委員会活動報告

18号目次

P1：県連の動き

P4：県連加盟会通信「北本山の会」

P5：岩ネット参加報告

P6：救助隊セルフレスキュー講習会参加

山のフォトコンテスト投票受付中

○現在県連ホームページにてフォトコンテストを開催中です。作品をご覧くださいお気に入りの写真に投票下さい。投票お待ちしております。

安全登山講演会

11月30日(日)13:00～

場所：与野コミセン

講師：野口いづみ氏

定員100名

海外集会

11月30日(日)9:00～

場所：与野コミセン

担当：県連海外委員会

全国連盟活動

新特別基金運営委員会 10月28日(火) 交付審査23件、埼玉県連交付申請無し ・3倍交付についてと、ゲレンデスキーについての問題点の報告あり。

県連全体活動

○海外集会について

11月30日9:00受付(9:30～11:30)

場所：与野本町コミュニティセンター第1・第2会議室

○安全講演会について

11月30日1300受付(13:30～16:30)

場所：与野本町コミュニティセンター多目的ルーム(大)

事務局

カレンダー申込みの案内メールを各加盟団体へ配信します。
各会の申し込みを12月10日締め切りとします。

財政

1団体が連盟費未納、連絡して10月末までに納付してもらう

ハイキング

来年1月の講習会の講師・場所検討中

委員会活動報告**ホームページ**

機関紙電子版10月8日17号発行掲載、カレンダー「日本勤労者山岳連盟」販売中掲載、加盟会「三郷山の会」紹介HP更新掲載
山のWebフォトコンテスト開催：応募概要掲載
応募締切11/10、投票締切12/10、審査結果12/中旬、表彰は第2回評議会募集、投票の締め切り日の変更がありました。

自然保護

10月11日～12日にリニヤ新幹線を考える会があったが参加できず。
11月8日～9日都連主催天祖山見学会参加者加納。11月15日～16日関東ブロック自然保護集会 I N 神奈川参加者藤岡(15日)久保(15日～16日)

登山学校

10/4～5 第5回講座「初級岩登り」机上受講者：28名、運営委員11名
実技 台風の影響で中止、11月24日補習講座ハイキングに役立つ岩の立ち込み、トラバース懸垂下降等をする予定。11/1-2 第6回講座「天気の見方」机上：カルタスホール机上受講者：28名、運営委員11名、実技：赤城山・鈴ヶ岳 次回運営委員会 12/1予定

救 助 隊

10月18日セルフレスキュー机上講習参加者9名スタッフ5名計14名参加
講師：救助隊副隊長水谷(18日～19日)
10月19日セルフレスキュー日和田実技講習参加者8名救助隊員6名計14名参加
10/20 救助隊岩搬出机上学習 9名 ・11/9 実技 奥多摩岳稜岩] 引き上げ、引きおろし、チロリアンブリッジのシステム事前確認の予定
・11/10次回第5回役員会

岩ネット

10/25(土) 日和田山ゲレンデ 参加者14名
参加会：新座4名、所ハイ3名、やまなみ3名、飯能2名、大宮1名、ツルバミ1名、彩の山友1名、次回11月15日(土)(基本的には第3土曜日)

沢登りネットワーク

今年度の反省とまとめが資料付きで報告された。HPへ沢ネット参加報告、アンケート(山行形態と希望)を掲載、各会にアンケートをしますのでよろしくお願いします。HPより用紙をダウンロードして使用してください

海 外

委員会 9/18 2名 参加者依頼状況：(日和田、三郷、新座、にお願いしてある。実施。海外集会：11月30日(日)9:00受付(9:30～11:30)、場所：与野コミュニティセンター第1・第2会議室 こじんまりとでも、第一歩が踏み出せるとよい。

機 関 紙

機関紙電子版10月8日 17号発行掲載、機関紙ダイジェスト版発行
次回月 11/12日(第2水曜日)原稿投稿は早めに。(第18号)

遭難防止・安全教育

安全講演会：11月30日(日)13:00受付(13:30～16:30)、
場所：与野コミュニティセンター多目的ルーム(大)講師：野口いづみ氏 定員100名、参加費無料(リーフレット作成済)

組 織

2014年度理事役員名簿作成済、2014年度三役名簿作成・・・
未、・・・理事長
来月までに(11月)理事に配布します。

女 性

救助隊の援助でツエルト体験開催、詳細はHP参照。

- ・定例委員会 10/20 (参加6名) 開催・次回委員会 10/10 開催
- ・現在講習会申込者15名。募集締切。今後救助隊と打ち合わせをしていきます。

ブロック活動報告

西部＝ブロック会議：千葉B長(飯能) 会議10 / 9 交流ハイク打ち合わせ

・11/16本番(小川町和紙センター) 仙元山

南部＝ブロック会議：伊藤正B長(わらび) 会議10/16 パルコ9F

10/26交流バスハイク水沢山参加者：三郷23名、わらび5名、彩の山友1名、登山学校1名計23名

中部＝ブロック会議：岡野B長(大宮) 報告なし

北部＝ブロック会議：石川B長(熊ト) 報告なし

海 外 集 会

海外に興味のある方達との交流を深めませんか？

埼玉県連では海外ハイキング・トレッキングなど行かれて楽しんでいる会員との情報交換の場を今回企画しました。現在は保険のため計画書を提出するに留まっていますが、報告された内容にプラスした体験談などを話しあい、これから企画したい方達にも参考になる場に少しでも成ることが出来ればと思います。

2014年11月30日(日) 与野本町コミュニティセンター 第1・第2集会室

埼京線 与野本町駅 西口徒歩5分

・9:00受付 ・9:15開始挨拶 ・9:20報告～10:30 (1:10)

参加会名 1) 日和田アルパイン1名(カナダ)

2) 三郷山の会3名(大姑娘山・スイスネパール・他)

3) 新座山の会1名(キナバル)

休憩

10:40～11:50 (1:10)

アルパインツアー挨拶

上映

ヨセミテ・アジア・インカ道他

12:00 閉会





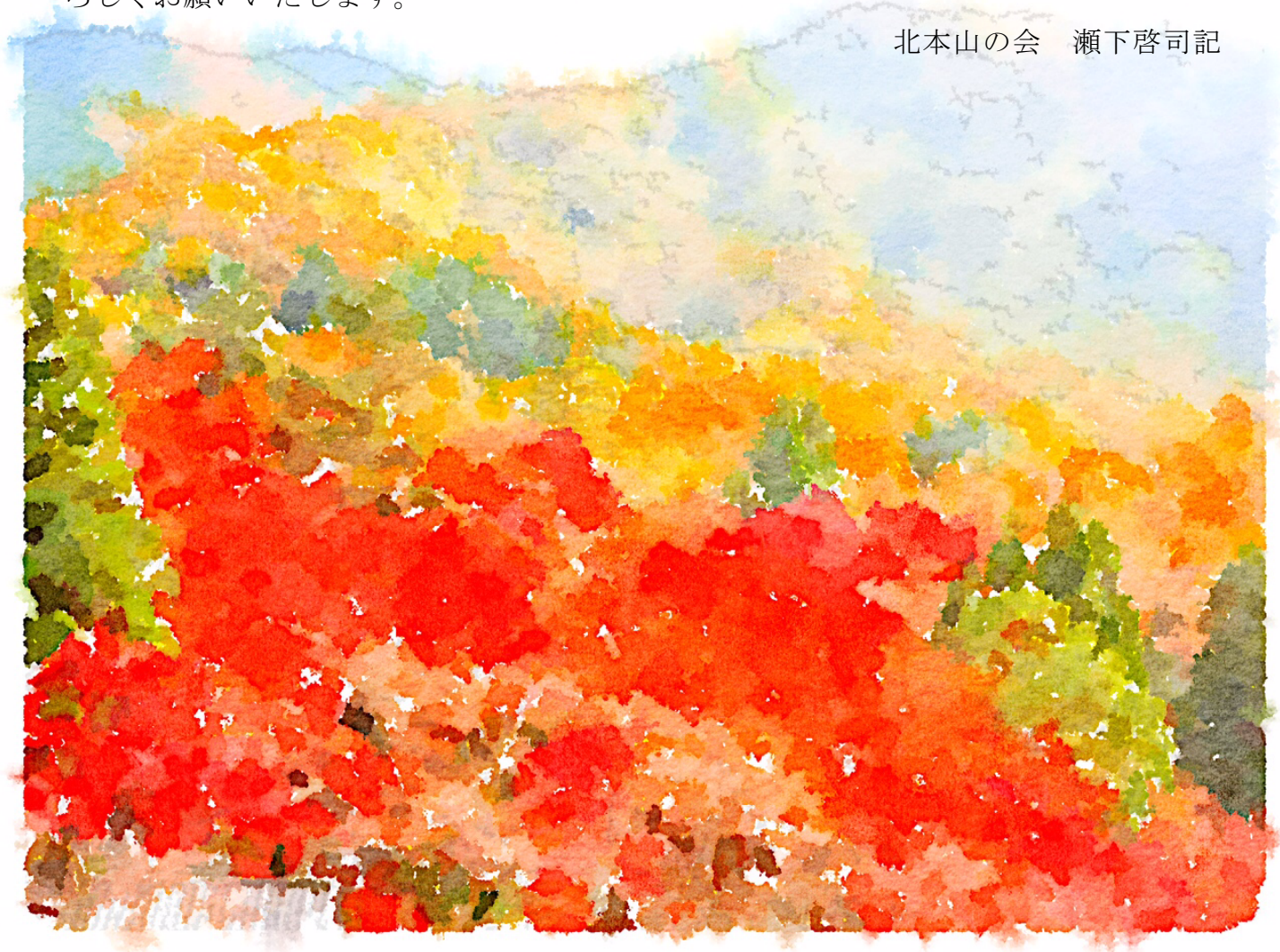
北本山の会紹介

北本山の会

北本山の会は、今年で15周年を迎えました。“ハイキングからヒマラヤまで”を唱えて、これまで様々な山行を行ってきました。会員数は、20~30名ほどで推移して、現在は20名ほどです。最近では、岩・沢・山スキーなどは実施せず、ハイキングや縦走がメインの山行を行っています。会員数は県連の中ではあまり多くない方だと思いますが、年間を通して月に4回程度の山行があり、まずまず活発に活動しているのではないかと思います。今年の夏は、常念岳~蝶ヶ岳、鳥海山・月山などへ行ってきました。また、6月には15周年記念山行として、韓国・済州島のハルラ山への山行を行いました。さらには、会員の武藤紀子さんが、昨年のマッターホルンに続き、今年はモンブランへの登頂を果たされたのは、すばらしい快挙だと思います。定年後に本格的に登山を始め、70歳を越えて達成されたことは、本当にすごいことです。

会員数の伸び悩みや、会員の高齢化など、問題点もままありますが、県連や全国連盟のお力も拝借しながら、これからも末長く北本で活動をしていきたいと思っています。また、私どもも会としてできるだけ県連の活動に協力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

北本山の会 瀬下啓司記



岩ネット

10月岩ネット参加報告
恐るべし、熟年パワー

10月25日（土）日和田ゲレンデ 所沢ハイキングクラブ 前野 正登 記

当日の天気は快晴、何時もは車で近くの駐車場を利用し参加をしていたが、今回、初めて電車を利用すると所沢駅で電車を乗り換えし、電車に乗ると所ハイのA達さんにバッタリ出会う。聞くと秩父の札所めぐりとのことで、この札所めぐり結構キツイとのことでした。山道の方が舗装された道路よりも足に疲れが出ないとのことでした。またA達（女性）さん、若い頃の山の話や会の話などを聞かされているうちに、あっという間に高麗駅に到着した。

高麗駅から岩場までの歩行時間は25分くらいであろうか、途中高麗川沿いに歩くと澄み切った川には鯉やカモ・白鷺が見られ、心を和ましてくれる。そして、岩場までの登山道に入ると涼感を感じさせるコースとなり、しばらくすると目的の岩場が現れる。

全体的な流れでは、午前中は男岩の南面でウォーミングアップ？そして、昼食を挟んで午後は男岩のキツイ西面へ移動しクライミングが行われるのが一つの流れのようである。この岩ネットには昨年から参加させて頂き、全体を通して4回ほどである。その中で今年は、まだ2回目であり半年近くも前のことでもあり、注意事項などを聞いているうちに、ちょっと緊張感が走る。そして岩場へ向かうが、いきなりC葉講師に「ビレイヤーやってみな」言われ、一瞬「えっ！」っと思いつつ、ビレイの準備にとりかかる。このビレイヤー、人の命を預かる作業なので初心者の私にとっては緊張の連続である。当日の午前は、M谷講師とC葉講師から色々指示を受けクライミングを開始されるが、初心者の我々は要領を得ず登攀を始めるも直ぐに立ち止まってしまう。見かねたC葉講師は核心部分に登り、ポイントとなる部分にチョークで目印をつけて頂く。さらには登攀者に「右手はここ！、左手はここ！、足はここ！」と具体的に指示を出して頂き、漸くするとクリアし拍手喝采である。すると後に続く登攀者も次から次へと登攀成功し始める。午後はキツイ男岩西面でのクライミングとなるが、午前の疲れも少々残っていることもあり、まったく登攀できない。講師陣あきれ返り、情けない限りである小生を見かねたのであろう、またまたチョークで全てのポイントに印をつけて頂くが、全く登攀にならない。さらには、お手本を見せて頂き、「腕に力を入れるな。足で体を持ち上げろ」などと声をかけられるが、そのうちに腕がパンプし一日が終える。それにしても、講師陣の何気なく簡単に登攀してしまう熟年パワーの凄さをまざまざと見せつけられる「岩ネット」、何時かは自身も講師陣のようになれたらと思い参加しているこの頃である。熟年パワーだと叱られるかもしれないので、熟年スキルかな。

※参加者 新座4名、所HC3名、やまなみ3名、飯能2名、椽1名、大宮1名、彩山友



救 助 隊

セルフレスキュー講習会参加報告

飯能労山結城太郎記

今回のセルフレスキュー講習会で得られたものはセルフレスキュー技術にのみならず、セルフレスキューの困難さと事故を起こさぬための予防措置の重要性です。

10月18日の午後1時から高鼻コミュニティーセンターに受講生8名、救助隊5名が集まり、講習会が始まりました。まずは講義。講義で強調されたのは次の2点です。まず第一に事故を起こさぬための事前準備です。

◎体力・体調の管理

◎装備・使用方法の習熟

◎山の知識・経験の向上

◎周到的な計画の作成

これらは登山をする者にとって当たり前のことですが、事故のほとんどがこの原則をお座なりにしたことが原因で発生していると思えます。

第二に登山は登山者の自己責任で行うものであり、事故が発生した場合でも、警察・消防に頼る前に当事者ができる限りの努力をすべきであり、そのためにはセルフレスキューの技術は不可欠という点です。講義の後は室内での実習です。ロープワークや明日のフィールド実習で行う3:1引き上げ法の設置法を、和気藹々ではあるが、手を抜くと救助隊からの叱責が飛ぶという少し緊張感の漂う中、実習いたしました。

翌日は秋晴れ、絶好の登山日和です。こんな日に山に登れないなんてと少し悔しい気持ちを心に秘めながら、実習場となる日和田山に向かいます。午前中は登山口でストック、リュック、カップなど身近な登山用品を使った搬送方法の実習。ちょっとした工夫で怪我人を安全に搬送できること、実際にやってみてないと（知識だけでは）だめなことを実感しました。午後からは実際の斜面を使用した転落者の引き上げ訓練です。昨日、3:1引き上げ法のセッティングは室内で習いましたので、形はすぐにできましたが、実際に人を引き上げてみると、スリングの長さや折り返しの方角、支点の位置等、多くの欠陥が見つかります。全員がリーダーを終了するまで繰り返し練習すると、最後にはスムーズな救出ができるようになりました。

今回の講習では転落者の引き上げや怪我人の搬送方法等、セルフレスキューに関する基本的な技術を学ぶことができ、大変有意義な2日間となりました。しかし、これらの技術を安全かつ確実に活用できるようにするには、斜面への対応（どのくらいの斜面まで搬送可能か、どのような補助が必要かなど）等、まだまだ実践的な訓練が更に必要と思われました。

引き上げ訓練では、今回、救助者7人、滑落者は自力で坂を登れるという設定でも、急斜面になると引き上げにかなりの労力を要しました。また、ザックやストックを使うことにより、より安全で楽に怪我人を搬送できますが、急斜面や長距離の搬送ではおそらく困難なことでしょう。実際にセルフレスキューの訓練を体験してみると、登山者が自分たちでできることは限られると実感できます。セルフレスキューの技術を身に着けた上で、「まずは事故を起こさぬこと」を心に刻み、山へ出かけたいたいものです。

救 助 隊

セルフレスキュー講習会参加報告

新座山の会 吉田久恵記

「登山道から転滑落したら、何ができるか」という文言に惹かれて興味を持ちましたが、私にはあまりなじみのない救助隊が行う講座ということで、受講しようかどうか少し躊躇しました。しかし、「ハイキング中の事故を想定」ということと、受講資格については何も言及していなかったのも、私にも理解できる内容かと思い申し込みました。

机上講習の講義の部分は、とてもわかりやすく、アクシデントが起きた場合どういう手順でセルフレスキューをすすめたらいいのか、よく理解できました。「登山前の準備」もセルフレスキューのひとつと考えるという点は、なるほどと思いました。また、通報について、自力で救助・下山ができる場合も、その旨を最寄りの警察署に通報するなど、具体的に教えてもらえて良かったと思っています。

ロープワークについては、他の受講者はすでによく知っているようで、結び方についてあまり時間を取ってもらえなかったのも、プルーজックしか知らない私にはとても難しく、名前と結び方もよく理解できない状態で、翌日の実技に大変不安が残りました。

翌日の実技講習の前半、搬送法の実技は、色々な方法を教えてもらえ、実際に交代で運んだり運ばれたりして、重さ・乗り心地を体験できてとても有益でした。ストックを使っただけの担架搬送、ザック・スリングを使っただけの背負い搬送、ヒューマンチェン法などは、所属の会の会員にも体験してほしいと思いました。知っていれば、いざという時にきっと役立つはずですから。

「1/3 引き上げ法」の実技は、前日のシミュレーションではあまり実感が持てず、ロープワークの理解も不完全でしたので、どうなる事かと思いましたが、実際に現場で、役割を交代し何度も行ううちに理解が深まりました。一度の体験ではどうにもなりません、機会があったら今回のような講習をもう一度二度と受け、完全に身に付けたいと思っています。でもやはり、搬送するのも引き上げるのも大変な労力があるのを実感し、事故の無いよう一層の注意が必要との思いを強くしました。

今回は大変良い勉強になりました。ありがとうございました。

